

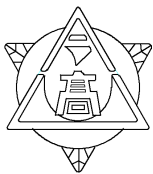
平成 2 9 年 度

研 究 紀 要

創

第 2 0 号

TSUKURU



北海道今金高等養護学校

巻頭言

本校では、平成27年度から「卒後を見据えたキャリア発達を促す指導法の研究～協同学習と生活指導の充実を目指して～」に3カ年計画で取り組むこととし、今年度が3年次目となりました。今年度の課題研究では、昨年度作成した「協同学習授業マニュアル」をさらに改訂し、このマニュアルに基づいて、年間を通して、授業担当者は授業を行い、実践レポートを作成しました。この実践レポートは、研修部が内容の過不足や協同学習のとらえ方の修正を行った上で、授業案を作成して研究授業を行ってもらい、授業者は授業参観者によるアンケートを踏まえて指導案に評価を記入して、それぞれの授業における協同学習の成果のレポートを作成しました。そして、教科・形態部会ごとに実践レポートと研究授業の指導案を基に協議を深め、各部会としてのまとめのレポートを作成しました。

今回の協同学習に関する実践研究によって、生徒のコミュニケーション能力がどの程度向上したのかを把握するために、子ども理解支援ツール「ほっと2014」を6月と12月で2回実施しました。その結果、全体として、生徒のコミュニケーション能力の底上げが図られていることが明らかになり、協同学習の有効性の一端を確認することができました。協同学習の方法を活用した授業で、「主体的・対話的で深い学び」の実現に迫る、「主体的・対話的」な学習活動は実現することができました。「深い学び」に至るために、各教科等の「見方・考え方」の一端は協同学習スキルに既に盛り込まれています。今後は、「深い学び」に迫る研究が必要になります。

プロジェクト研究Ⅰでは、「今養版キャリアプランニング・マトリックス」の活用に向けて、単元の指導計画の集約とマトリックスの各項目との照合を行い、課題を明確化することができました。プロジェクト研究Ⅱでは、「学習状況の観点別評価」について、評価マニュアルを作成し、2学期から全学年で3観点別評価を試行しました。併せて、観点別評価を効率的に実施できるように、評価補助簿の作成システムを表計算ソフトで作成しました。プロジェクト研究Ⅲでは、道内で初めて設立した模擬株式会社 IMAKANE FACTORY を活用した実践的なキャリア教育の推進の在り方について、事例的に検討しました。

調査研究では、「今金町キャリア教育・職業教育研究フォーラム」（年3回実施）と「今金町障がい者雇用事業者連絡会」で協議された卒業生の実態や課題について理解を深めるとともに、改善策の検討を行い、整理された課題は教育課程のどの教科・形態等で扱うことが望ましいかについてまとめることができました。

寄宿舎の研究では、舎友会活動に焦点を当てて室長の主体的な活動を引き出すとともに、メタ認知測定尺度を用いて室長のメタ認知の成長度合いを把握して、指導・支援の充実に努めました。室長の自治的意識や協調性の高まり、客観的に見る力の向上、規範意識の向上や望まし人間関係の形成が図られました。

校内研究の推進に当たっては、本校の研究アドバイザーとして、北海道教育大学函館校の北村博幸教授に、本校まで足を運んでいただき、重要かつ示唆に富む御助言をいただき、研究を推進することができました。深く感謝申し上げます。

本研究は、知的障がい教育におけるキャリア教育の創造という大きなテーマに協同学習の観点と生活指導の観点から迫ろうとするものです。是非、忌憚のない御意見と御助言をいただければ幸いです。また、今後とも本校への御理解と御支援を賜りますようお願い申し上げます。

平成30年3月

北海道今金高等養護学校長 高 嶋 利次郎

目 次

<巻頭言>

第 1 章	研究の全体像	．．．．．	1 ～ 5
第 2 章	課題研究	．．．．．	6 ～ 1 9 4
第 3 章	プロジェクト研究Ⅰ	．．．．．	1 9 5 ～ 2 0 6
第 4 章	プロジェクト研究Ⅱ	．．．．．	2 0 7 ～ 2 4 0
第 5 章	プロジェクト研究Ⅲ	．．．．．	2 4 1 ～ 3 1 0
第 6 章	調査研究	．．．．．	3 1 1 ～ 3 1 5
第 7 章	寄宿舍の研究	．．．．．	3 1 6 ～ 3 2 5
第 8 章	研究の成果と課題	．．．．．	3 2 6 ～ 3 3 1

<あとがき>

<共同研究者>